



旅行代理店に送信したEメールを、相手と電話で確認する静馬さん。速度はモバイルデータ通信約1000Kbps、ISDN回線約26Kbps。画像を添付して送ると、負荷がかかりすぎて動かなくなってしまうことも多いという。

ブロードバンド未整備地域の声

**町最大の観光資源
最奥地という条件が不利に**

町の一番奥に位置する寸又峡温泉(大間)。静かな佇まいが隠れ里のようなイメージを醸し、観光シーズンには都市部から多くの観光客が訪れる。

しかし、町の最奥地という地理的条件が影響し、今もなおブロードバンドは未整備のまま。ISDN回線が主流となっている。

ADSL回線はその特性上、電話局との距離が遠くなるほど速度が遅くなるという性質を持っている。ある程度の速さが見込める範囲は、一般的に「電話局から4キロ以内」とされる。寸又峡はその倍以上の約10キロ。このためADSL回線は提供されていない。

ここ寸又峡温泉で「湯屋飛龍の宿」を営む望月静馬さん。ブロードバンドが利用できないことで、どんな弊害があるのか尋ねてみた。

予約はHPからが約7割

宿泊されるお客さんの内、インターネットで予約する人の割合は全体の約7割にのびります。宿のホームページから予約する人もいれば、旅行代理店のホームページから予約する人もいます。

情報通信は、言ってみれば上下水道と同じ生活に必要なインフラ整備です。どの地域も平等にサービスを受けたい。そう思っている人が本町にはたくさんいます。

電話で予約するのが当たり前だった10年ほど前には、考えられなかったことです。

最近では、宿のホームページを見ながら電話をくれるお客さんも増えてきました。基本的な情報をホームページで見ながら、電話で詳細を確認するんですね。

こちらも同じようにホームページを開いて質問に答えるんですが、お客さんのパソコンではさつと次のページに移れるのに、こちらはさつぱり移れない。長く待たせてしまうことが多く、お客さんに迷惑をかけてしまうこともしばしばなんです。

1カ月の電話料が840万円？

ISDN回線では使い勝手が悪過ぎるため、今はモバイルデータ

通信を併用しています。でも請求書を見て驚くんです。なんと1カ月の利用料金が「840万円」なんです。840円ではなく、840万円です。

毎日、モバイルデータ通信で常時接続しているんですね。これは言ってみれば、「携帯電話で一日中通話をしている状態」なんです。月額サービスを利用しているの、実際に払う金額は月々約8千円で済みますが、本来なら毎月800万円以上の電話料がかかっているわけです。ちよつと恐ろしい話です。

その割には、期待したほど速度は出ていないんですね。ADSL回線にはとても及びません。モバイルデータ通信は無線なので、天候などにも左右されますし、決して使い勝手がいいとは言えません。ISDN回線に比べたら、多少は

速いので使っているというのが現状です。

「当たり前」という尺度

都会の人が当たり前と思っていることでも、この地域では当たり前じゃないことがたくさんあります。コンビニ、診療所、警察、役所、銀行、学校……。都会の人にとっては、どれも近所にあつて当然のもの。でもここ寸又峡は違う。どこに行くにも車で30分、40分かかってしまう地域なんです。

インターネットだって同じです。今の状態では、ほかの観光地に立ち後れてしまうのが目に見えています。お客さんにとって、最初の電話の印象というのはとても大事です。インターネットが遅くて待



寸又峡温泉「湯屋 飛龍の宿」主人
望月静馬さん(大間)

たせてしまう……。それだけで大きなマイナスなんです。ブロードバンドの整備は、寸又峡にとって死活問題だといえます。

同じ町に住んでいても、中心部と寸又峡では、大きな情報格差があります。情報通信は、言ってみれば上下水道と同じ。必要なインフラ整備です。

蛇口をひねれば水が出る、スイッチを押せば灯りがつく。みんな当たり前と思うかもしれませんが、決して当たり前ではないんです。ちゃんと整備されているから使うことができます。

同じ町に住む人間として、生活に必要なサービスは平等に受けたい。そう思っている人が、この町にはたくさんいます。



静馬さんをお願いして、先月分の電話料請求書を見せてもらった。中央付近に本来の回線使用料となる8,410,623円が、その下に月額サービスとしてマイナスされる金額が記載されている。1千万円を超える月もあるという。実際に払う金額は、左側にある7,883円。それでも一瞬、ぞっとしてしまう請求書だ。



モバイルデータ通信イメージ